



長崎県島原病院だより

こもれび

Nagasaki Prefecture Shimabara Hospital

2018 夏号

地域に信頼され、親しまれる病院を目指して、みなさまと当院をつなぎ、森に差し込む“こもれび”のような、ひとすじの光をお届けしたいと思います。

玄関のメランポジウム

Contents

- ・専門医に聞く
子供の熱中症
小児科医師 内田 信宏2・3
- ・部門トピックス
看護科 島原病院に診療看護師がやってまいりました4
- ・部門トピックス
災害訓練 災害拠点病院訓練を実施しました！5
- ・部門トピックス
増感研究会 第24回癌治療増感研究会開催いたしました！6
- ・連携医療機関のご紹介
坂本内科医院7
- ・ボランティアさんありがとうございました7
- ・市民公開講座を開催します！8

病院理念

患者さん本人の立場に立った医療

病院指針

1. 早期診断、早期治療、早期リハビリテーションを医療の基本指針とします。
2. 診療にあたっては、インフォームド・コンセントを基本にして、患者中心の医療を展開します。
3. 早期退院と医療の継続を目的に病診連携、保健福祉の連携など、地域につながるチーム医療を展開します。
4. 地域医療を支援する施設として、常に医療水準の向上に努めます。
5. 経営基盤の確立に努め、協働、相互扶助、相互啓発を職場の規範として活力ある病院づくりを進めます。



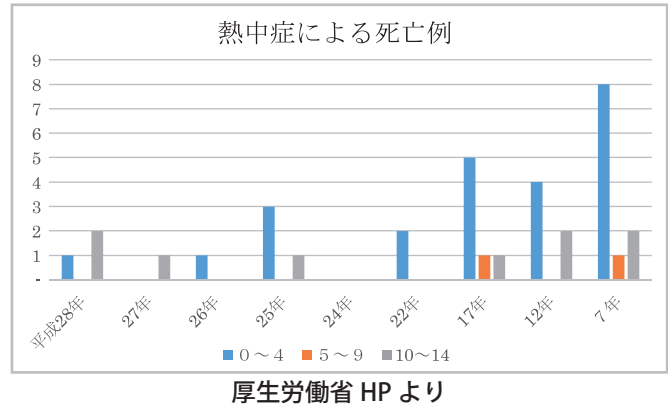
子供の熱中症

小児科医師 内田 信宏

近年、真夏日や熱帯夜となる日数が増え、それにもない熱中症のニュースもよく目にするようになりました。7月は猛暑が続き、全国で熱中症のニュースが多く報道されました。

小学1年生の児童が死亡した例も記憶に新しいかもしれません。

当院にも軽度の熱中症を疑わせる小児が受診されます。



過去と比べて15歳未満の死亡例は減っていますが、残念ながら毎年数人が命を落としているのが現状です。

正しい対応が必要であり、熱中症について少しお話させていただきます。

熱中症とは

熱中症は「暑熱環境下における身体の適応障害によって起こる状態の総称」と定義されます。小児では成人に比べて体温調節中枢が未熟なため、熱中症が起こりやすくなります。

その理由として、

- ① 成人と比べて体重あたりの体表面積が大きい
- ② 体重あたりの水分率が大きい
- ③ 発汗能力が未熟で気化が上手くいかない
- ④ 乳幼児ほど腎の濃縮能が弱い

体重に占める割合	新生児	小児	成人
総体液量 (%)	75	65	60
細胞外液量 (%)	35	25	20
細胞内液量 (%)	40	40	40

これらの理由により、乳幼児は成人に比べて環境温の影響を受けやすくなります。

熱中症の重症度

熱中症は症状により下記のように分類することができます。

	症状	重症度	治療	従来の分類	
I度 (応急処置と見守り)	めまい、立ちくらみ、生あくび、 大量の発汗、筋肉の硬直、 意識障害は認めない		現場で対応可能 →冷所で安静、体表冷却、経口的に水分とNaの補充	熱けいれん 熱失神	I度の症状が改善している場合のみ、現場での応急処置と見守りでOK
II度 (医療機関へ)	頭痛、嘔吐、倦怠感、脱力感、 集中力低下 (JCS1以下)		医療機関での診察 →体温管理、安静、十分な水分とNaの補充(経口摂取が困難なら点滴治療)	熱疲労	II度の症状が出現したり、I度の症状が改善が見られない場合、すぐに病院へ搬送(周囲の人が判断)
III度 (入院加療)	下記のいずれかを含む ①中枢神経障害 (JCS \geq 2、小脳症状、けいれん発作) ②肝・腎機能障害 ③血液凝固異常 (急性期DIC診断基準の適応)		入院管理が必要 →体温管理(体表冷却に加えて体内冷却・血管内冷却を追加)、呼吸・循環管理、DIC治療	熱射病	III度か否かは、救急隊員や病院到着後の診察・検査により判断される

日本救急医学界熱中症分類2015より

子供の熱中症の特徴として

- ① 大人より暑さに弱い：汗をかくのに時間がかかり、体温を下げるのに時間がかかるため、体内に熱がこもりやすいです。
- ② 照り返しの影響を受けやすい：身長が低いため、地面からの影響があります。大人が暑いと感じているときに、子供はさらに高温の環境下にいます。
- ③ 自分では予防できない：自らの体調の変化を訴えられないこともあるので、周囲の大人が注意する必要があります。

熱中症の症状は

軽いめまいや頭痛は軽い熱中症の可能性がありますが。衣類を緩め、涼しいところに寝かせます。市販のイオン飲料（経口補水液など）を、こまめに少しずつ飲ませます。睡眠がとれているのにあくびをしていたり、汗を大量にかいていたりする時は、注意が必要です。筋肉痛のような手足の痛みを訴えることもあります。

熱中症の予防には

- ① こまめな水分補給を行う：本人がのど乾いたと言ったときには、すでに水分を失っている可能性があるため、のどが渇く前から水分と塩分を与えましょう。
- ② 気温に対して衣類を調節する：通気性のいい服や、暑さに対応して脱ぎ着しましょう。外出時には帽子も効果的です。
- ③ こまめに日陰・屋内で休憩する：子供は照り返しに強く影響を受けます。
- ④ 子の変化に敏感になる：顔が赤い、汗をひどくかいていないかなど注意をしましょう。
- ⑤ 屋内や車内では適切なクーラーの使い方を：いつもクーラーの効いた部屋で汗をかかずにいると暑さに弱くなるので、適度な運動も大切です。
- ⑥ 長時間日向に置かない：ちょっとだけと油断せず、常に一緒にいましょう

子供が熱中症になったときには

だるさや吐き気、それに頭痛やけいれんが起きれば、熱中症の状態が重くなっている可能性があります。重症化しないため、イオン飲料をこまめに少しずつ与えながら、冷たいぬれタオルで拭く・風を送る・クーラーの効いた部屋に寝かせて、積極的に体を冷やすようにしましょう。同時に、病院を受診する準備をしましょう。

あまりにひどい場合、熱射病の可能性も考えられますので、少しでも意識状態がおかしければ救急車を呼びましょう。救急車の到着を待っている間も、体を冷やし続けてください。

救急車を呼ぶ目安（意識障害がある場合は、他の症状がなくても呼んでください）

- ① 意識障害・全身の痙攣
- ② 体温が40度以上
- ③ 汗が出なくなる

島原病院への受診

尿量の低下や嘔吐、倦怠感、脱力発作があるときには相談をしてください。

当院は基本的に奇数日に夜間救急外来を行っておりますが、意識障害があるような時や救急車を呼ぶべきか判断がつかない時は、一度当院へご連絡ください。

医療局

島原病院に診療看護師が やってまいりました

診療看護師 安達 杏菜

<診療看護師という職種をご存知でしょうか>

米国をはじめとする諸外国では数十年前から Nurse Practitioner (NP) と呼ばれる、一定の権限を持ちながら医師と協働して患者さんの診療を行う看護職が活躍しています。日本でも多様化する医療ニーズに対応すべく看護師の役割拡大が推進されるようになり、2015年に戦後初めて保健師助産師看護師法が改正されました。そして同年10月に“特定行為に係る看護師の研修制度”が制定され、21区分38項目の医行為が特定行為と定められました。診療看護師はこの法令に基づく特定行為を実施しながら、看護の視点から全人的なケアに基づく医療サービスを提供することができる看護職です。



<島原病院での診療看護師の取り組み>

2018年4月より、島原病院初の診療看護師として外科に配属となりました。現在は主に外科病棟入院中の患者さんの手術や外傷、褥瘡等の創傷に関する観察やアセスメント、処置を医師や看護師と協働で行っています。また、薬剤師や栄養士、リハビリスタッフと情報共有を図りながら、患者さんの周術期のサポートを行っています。その他、入院時から患者さんの退院後の生活を見据え、看護師やMSWと連携して退院・転院支援にも力を入れています。

災害訓練

災害拠点病院訓練を実施しました！

総務係長 鳥瀬 邦彦

台風接近のなか、緊張感をもって訓練に参加

島原病院は、災害時の救急医療に当たる病院として、平成3年に「災害拠点病院」として指定されております。実際に災害が発生した際に、災害拠点病院として有効に機能することができるよう、毎年訓練を重ねています。今年も7月2日に13回目となる訓練を行い、病院スタッフ、島原・南島原消防署の救急救命士、長崎県立大学シーボルト校学生等、約130名の方々に参加いただきました。

今回の訓練は、『13時30分頃に島原沖断層群でマグニチュード6の地震が発生し、島原市内では震度5強を観測した。』との想定で開始されました。初動対応として、院内に災害対策本部を立ち上げ、建物や医療機器の被災状況及び患者や、医療従事者の人的被害の把握に努め、著しく診療に影響を及ぼす被害が無かったことが報告されました。その頃、島原消防署から地震の影響による眉山山麓の崩壊により土砂崩れが発生し、複数の家屋が被災しており、多数の重軽傷患者の受け入れを要請する連絡が入りました。院長は、傷病者の受け入れ態勢を確立するよう指示し、医師や看護師は、外来ホール等にトリアージや処置を行うための準備を進め、搬送されてくる患者の対応に努めました。

当日は、台風が接近しており、訓練を実施するべきか天候に不安を抱えながらの実施ではありましたが、昨年度の九州北部豪雨災害が起きた時期と重なることもあり、参加者の皆さんは緊張感を持って訓練に参加いただきました。

島原病院は、実際に噴火災害を経験した数少ない災害拠点病院であることから、災害対応への準備の重要性を再認識できたことと思います。

今回の訓練に参加いただきました県南保健所、島原・南島原消防署、県内医療機関のDMAT隊員の皆様、長崎県立大学シーボルト校の皆さま、誠にありがとうございました。

今後も、いつ襲ってくるか分からないあらゆる災害に対応することができるよう、災害訓練に取り組んでいきたいと考えております。



余震 本部も避難訓練



院内の被災状況等を集約



災害現場での応急処置



受入患者の状態を示すモニター

増感研究会

第24回癌治療増感研究会 開催いたしました！～2018.05.26 IN 雲仙～

大会事務局長 鐘ヶ江 真弥

今研究会は、国際癌治療増感研究協会（各種癌治療法の治療効果を増強する方法の研究ならびに長期生存の達成を目的とする協会）の年に1度の定例会であり、当院放射線科 小幡史郎診療部長が大会長を仰せつかり、2018年5月26日に雲仙温泉 東園（あずまえん）にて第24回癌治療増感研究会を盛大に開催いたしました。放射線治療で医療向上を目指す熱のこもった各界のエキスパート（大学・中核病院・研究機関・企業 etc）が集い、放射線量はそのままに効能を大きくする「増感」に関して和やかに時に激しく意見を交わしました。なかでも、大きい反響を得たのが KORTUC(Kochi Oxydol-Radiation Therapy for Unresectable Carcinomas : コータック) でありました。



放射線科診療部長 小幡 史郎

KORTUC は腫瘍にオキシドール（過酸化水素水）+ ヒアルロン酸を注入・噴霧し放射線量を変えことなく理論的には3倍の効果を得られる手法です。これにより従来法に比べ治療効果を高めることが可能となります。（詳しくは「KORTUC 島原病院」で検索）

当院はこの手法を2008年より導入し、症例数はKORTUC発案者の高知大学名誉教授小川恭弘氏に続く約170例*の症例を経験しており適応患者に対して治療を行っています。今のところ全国的に既知の治療法とは言えませんが、雲仙に全国各地より多くのエキスパートを集めたことが注目の高さを物語っていました。今研究会の盛会は、今後の放射線治療の発展と癌治療の新たな夜明けを予感させるものとなりました。（※2018年7月時点）



連携医療機関のご紹介

これからの医療は役割分担と連携が大切！
いつもご協力いただいている地域の医療機関をご紹介します。

医療法人慈眼会 坂本内科医院

院長 坂本 淳先生 副院長 関本 眞由美先生
島原市親和町丁2670 ☎0957-63-4641

当院は島原市の通称雲仙登山道路の登り口のところにあります。

内科、婦人科の外来診療に加え入院病棟（一般7・介護療養型12）があり、ご自宅での治療、看護が困難な患者様の受け入れが可能です。また訪問診療も行っております。

専門外や重症の場合は島原病院の先生方に昼夜休日を問わずお願いすることも多く、ご多忙の中いつも快くお引き受けいただけることに心から感謝しています。また、逆にしばしば転入院の患者様をご紹介します。時には難しい症例もありますが、そのおかげで診療、看護、介護のスキルも上がっていると感じています。

同一敷地内にグループホーム3ユニット（親和・親和2）、有料老人ホーム（じげん）、通所リハを擁していますので医療と介護が一体となった施設として地域のお役に立てればと考えています。

最後に、最近私自身が力を入れているのが漢方診療です。専門の婦人科のみならず、様々な症状に対応できるのは周知の事実ですが、奥が深く積み重ねが必要な分野です。“老眼”にムチ打って日々勉強中です。



ボランティアさんありがとうございました

ボランティアの松尾さんと坂本さんは、15年間の永きにわたり当院に貢献していただきました。今回そのご尽力に感謝し、感謝状が贈呈されました。

患者さんの受診サポート、散歩の同伴、お話し相手、お掃除など様々なボランティアにご尽力いただきありがとうございました。今回、引退とのことで、大変残念です。当院にとって、かけがえのない方々でありました。今後のご健勝とご多幸をお祈りしております。



感謝状贈呈式



院長と一緒に

市民公開講座を開催します!

市民公開講座を今年も開催します。
島原市民の方は、ご参加いただくと「島原市いきいき健康ポイント」を差し上げます。
どうぞご参加ください!

脳卒中市民公開講座

テーマ：知って得する! 今日からできる 脳卒中の予防

日時	平成30年8月25日(土) 午後1時30分～3時30分(開場:午後1時)
場所	島原文化会館 大ホール 入場無料・申込不要
座長	長崎県島原病院 院長 徳永 能治
講演	● 脳梗塞治療の今! 山口 将 (長崎県島原病院 脳神経外科) ● 運動習慣をつけて脳卒中を予防しよう! 横田 悠介 (医療法人社団東洋会池田病院 理学療法士) ● 脳卒中を食事で防ぐ! 健康食の「真」常識 磯本 朗 (長崎県島原病院 管理栄養士)

がん市民公開講座

テーマ：肺がん最前線 ～ひとりひとりの肺がん治療～

日時	平成30年9月29日(土) 午後1時30分～4時(開場:午後1時)
場所	島原文化会館 大ホール 入場無料・申込不要
座長	長崎県島原病院 副院長 木下 明敏
講演	● 肺がんの基本の「キ」 木下 明敏 (長崎県島原病院 副院長) ● 肺がんの予防(禁煙)について 深堀 範 (長崎県島原病院 呼吸器内科) ● 島原市のがん検診の現状 山口 智美 (島原市保健センター 保健師) ● 肺がんの放射線治療 小幡 史郎 (長崎県島原病院 放射線科) ● 肺がんの薬物療法ーがん免疫療法を中心にー 菅崎 七枝 (長崎県島原病院 呼吸器内科) ● 肺がんのリハビリテーションについて 松尾 大輔 (長崎県島原病院 リハビリテーション科)

骨粗しょう症市民公開講座

テーマ：骨の健康大丈夫? ～骨粗しょう症にならないために～

日時	平成30年10月27日(土) 午後1時30分～3時20分(開場:午後1時)
場所	島原市有明総合文化会館 2階多目的ホール 入場無料・申込不要
座長	長崎県島原病院 整形外科診療部長 伊藤 茂
講演	● 要介護にならないために 坂上 秀和 (坂上整形外科 院長) ● 骨折しないからづくり 前田 和崇 (長崎県島原病院 理学療法士) ● 食事が変われば 骨も変わる! 松尾 奈津子 (長崎県島原病院 管理栄養士)



外来受診時間

午前8:45～午前11:00

受付時間外に受診される場合は、救急対応となります。
平成26年4月7日より小児科再開しております。
※詳しくはホームページをご覧ください。

休診日

土・日・祝日

年末年始(12月29～1月3日)

発行/長崎県島原病院

(広報委員会事務局:地域医療支援センター)

〒855-0861 長崎県島原市下川尻町7895番地
TEL 0957-63-1145(代表) 内線116 FAX 0957-63-6544
URL <http://www.shimabarabyoin.jp/>